「バイト減って収入が…」コロナ禍の学生に食料を

→↓神田キャンパス 1号館前広場

長引くコロナ禍の影響を受ける学生に向けて、学生生活課では今年度も食料支援を実施。第1回の5月26日（木）には、敷島製パン（株）、神田珈琲、校友会、育友会の協力で、パン、ジャム、スープなど1000人分の食料が神田・生田両キャンパスで配付された。

神田キャンパス配付場所の1号館前広場には開始14時30分から長蛇の列ができた。SKV（専修神田ボランティア）の学生も手伝い、食料が手渡されていく。

食料を受け取った金澤夢来さん（商3）は「バイトを入れる日や時間が少なくなって収入が減ったので助かる」と、鈴木秀さん（商3）は「バイトもなかなかできず、食費を削っていたのでとてもありがたい」と話す。二人は共に一人暮らしだ。他の学生からは、最近の物価高を嘆く声も聞かれた。食料支援は7月11日（月）にも実施され、12月も予定している。

↑左から金澤さん、鈴木さん

↑配付された食料

まわりに起きてない？デートDVを考える

身体的な暴力だけでなく、暴言や無視、外出や交友関係の制限、同意のない性行為の強要など、恋人の主体性を奪い支配するデートDV。キャンパス・ハラスメント対策室（室長：内藤光博法学部教授）は6月8日（水）、川崎市の協力で「デートDV予防啓発ワークショップ」を、杉橋やよい経済学部教授の「経済とジェンダー1」の授業内で開催。暴力のない社会の実現に取り組む認定NPO法人エンパワメントかながわ（阿部真紀理事長）の方々を講師に、約110名の学生が受講した。

「立場の違いがあるだけでみんな平等なはず。全ての人に暴力を受けず生きる権利がある」「DVの渦中にある当事者は気づきにくいため、パートナーとの関係が対等かどうかを振り返ってほしい」と講師は学生に語りかけた。

ワークショップでは、恋人から暴力を受ける女性の事例から、被害者・加害者それぞれの気持ちや周囲の友達ができることを話し合った。

↑話し合う学生たち

↑左から山里さん、藏之内さん

受講生の山里彩乃さん（経済3）は「カップルの3分の1にDVが起こっていると知り、関係ない話ではないと感じた」、藏之内ハナさん（経済3）は「価値観の押し付けや依存しすぎもDVだということを知った。相手や自分、周囲の人の命を守るためにも学んだことを活かしたい」と語る。

※撮影時のみマスクを外しています。